



保健のページ



【今月は夏に多い感染症をご紹介します】

●ヘルパンギーナ

主な症状: 5歳以下が全体の90%を占める感染症です。感染から2~4日後に、喉の痛みと水疱が出現します。発熱は1~3日続き、食欲不振・倦怠感・頭痛なども引き起こします。

一般的には経過良好で、2~3日で回復していきませんが、合併症として、熱性けいれんや脱水、髄膜炎などにも注意が必要です。

感染経路: 経口感染・接触感染・飛沫感染 急性期には咳をしたしぶきからの感染が多いケースです。

※全身状態が安定していれば登園可能です。登園届は必要です。

●咽頭結膜熱(プール熱)

主な症状: アデノウイルスの感染により、発熱・喉の痛み・結膜炎などを引き起こします。

かつては、プールでの接触やタオルの貸し借りなどで流行していたため、「プール熱」と呼ばれていましたが、最近ではプールが原因での流行は見られなくなっています。

1日の中でも熱が上下することを4~5日ほど繰り返し、喉の痛みも伴います。頭痛・腹痛・下痢を併発する場合があります。加えて、目の充血、目ヤニなどの症状もある場合があります。

感染経路: 飛沫感染・接触感染

※主要症状が消失し、2日を経過するまでお休みいただく感染症です。再登園の際は登園届が必要です。

●流行性角結膜炎

主な症状: アデノウイルスの感染により引き起こされます。1~2週間の潜伏期間ののち、結膜の浮腫・充血・まぶたの浮腫が見られ、目ヤニも伴います。感染力が非常に強いため、集団生活では流行しやすい感染症です。

感染経路: 接触感染

※医師において感染のおそれがないと認められるまではお休みいただく感染症です。再登園の際は登園届が必要です。

●手足口病

主な症状: 2歳児以下が感染の半数を占めますが、小学生も流行することのある感染症です。

小学生以降の大人ではほとんどの方が感染したことがあるため、発症することがあまりありません。

感染から3~5日後に、口の中・手のひら・足の裏・体幹などに、2~3mmの水疱が出ます。

発熱を伴うこともありますが、高熱になることは少ないです。

感染経路: 飛沫感染・接触感染

※全身状態が安定していれば登園可能です。登園届は必要です

